

# ああ青春の歡喜を

(大正十五年寮歌)

木村左京君 作歌  
牧野千代治君 作曲

## 一

ああ青春の歡喜を  
宴の酔ひと言ふは誰れ  
我が行く方の遠ければ  
しばしこの舎に憩ひして  
草を茵の旅枕  
明日の旅路を夢に見ん

## 二

曠野に萌ゆる若草の  
しらべゆかしき喜びを  
そよ吹く風に寄するとき  
うららかに照る春の日は  
霞の奥にまどろみて  
光の波は野に充てり

## 三

故郷の空は見えねども  
ただ野は広く路遠し  
彼方の国に孜々として  
歩みつづくる行人は  
行手の空に湧き出づる  
光の雲を如何に見る

## 四

望の光見えざれば  
世は永劫に常闇か  
我が清純の魂の  
撓まぬ旅は麗しく  
頑迷の徒も起き出でて  
我等の群に加はらん

## 五

あはれゆかしき人の世や  
夜ふけの街を歩みつづ  
遠き北斗の星を呼び  
友も歌へば我も和し  
来るはここぞ森の奥  
光まばゆき自治の燈